

## 平成二十二年 度

東京大学薬学部卒業式および東京大学大学院薬学系研究科学位記授与式

### 告 辞

本日、ここにめでたく卒業式および学位記授与式を迎えられた皆さんに対し、東京大学薬学部および東京大学大学院薬学系研究科の職員を代表して心からお祝いを申し上げます。また、皆さんの勉学をこれまで支えてこられたご両親、ご親族を初め、多くの関係者の方々にもお祝いの言葉を述べるとともに深い敬意を表したいと存じます。

本日の式典に先立ち、東北地方太平洋沖地震について触れないわけにはまいりません。困難ともいふべきこの度の大災害の被災者に対して心からのお見舞いの言葉を述べたいと存じます。尊い命を失われた多くの人々に深い哀悼の意を表すると同時にご家族やご親族を失われた方々の悲痛な思いは察するにあまりあります。一日も早い復興を心から祈念している次第です。

さて、本日ここに卒業式および学位記授与式を迎え、四月から社会に飛び立つ人も多いと思います。今日のこの式典に当たって、皆さんに「高い志を持って」ということを述べたいと思います。

最近の日本経済の停滞から、ともすると日本の若者が萎縮した傾向にあるように見えます。しかし日本国内だけを考えることはありません。今日の世界は十、二十年前に比べ、極端に小さくなっており、世界のある場所で起こった出来事が分単位で世界中に周知されます。この世界における情報の共有化は加速度的であり、皆さんが社会の中核として活躍する二十年後は私たちが今、東京とニューヨークの間に感じている距離がおそらくは東京と関西の間くらいになるのではないでしようか。皆さんが日本だけではなく世界を活躍の舞台とすることはもはや当然のこととなるでしよう。狭くなりつつある世界で日本だけが諸君の活動の場ではありません。

そして、世界で活躍する場合においても重要なことは、「高い志」を持つことです。その志を実現するためには幾多の困難を乗り越えなければなりません。この困難は諸君を鍛え、磨き上げ、更に高い目標に向かっていく力を養います。東京大学の卒業生は社会のエリートであり、社会を牽引する能力を持っております。是非ともその能力を鍛え上げる努力を今後とも惜しむことなく、初期の志、目標に向けて真正面から取り組み、人類の役に立つ仕事を成し遂げることを

期待しております。志の高い人は欲得で行動してはいけません。広く世の中のために尽くすことを第一義において頂きたい。

今からおよそ半世紀前の一九六四年三月の東大卒業式で、当時総長であられた大河内一男先生は卒業生に贈る言葉として「太った豚になるより痩せたソクラテスになれ」と述べられました。誘惑に負けない、清廉な人になれと言われ、この言葉は当時の若い学徒に大きな影響を与えました。

私は皆さんに「志士仁人（ししじんじん）」の言葉を送りたいと思います。これは論語に出てくる言葉で、志士は志が高いひと、仁人は仁徳のある人、志士仁人は生を求めて以て仁を害するなし、と述べられています。志の高い人は生きる上において、人の道に背くようなことはしない、と私は解釈しています。高い志を持つと同時に、その志は自らの欲得を離れ、仁愛の精神に基づいたものであり、人々に歓迎されるものでなければなりません。それがエリートに課せられた任務です。私は、諸君のこれからの人生において、世界の人々のリーダーとして活躍する気概を持つて臨むことを期待しています。

この告辞の結びに当たって、健全な心身の重要性を述べておきたいと思います。私は高い志を持って、そしてそれは自らの欲得に根差すものであってはならないと言いました。このような志を成し遂げるには高い能力だけではなく、強靱な身体が必要です。全ての基盤は健康な体力と精神です。薬学を学んだ諸君に頑健な心身の重要性を改めて説くこともないかも知れませんが、あえて、高い志を成し遂げる上において、心身ともに健全であることの大切さを強調しておきたいと思います。

最後に、国民は輝かしい未来の構築に向けて、東京大学の卒業生に大きな期待を抱いております。この期待を背負い、諸君が逞しくそして悔いのない人生を送ることを切望しております。これからの諸君の人生に幸多かれと心から祈念し、私からの告辞と致します。

平成二十三年三月二十四日

東京大学薬学部 部長・大学院薬学系研究科 長

長 野 哲 雄